

(証券コード 5237)  
平成28年6月7日

株 主 各 位

神戸市中央区浪花町15番地

株式  
会社 **ノザワ**

代表取締役社長 野澤俊也

## 第156回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

平成28年4月の熊本地震により被災されました皆様にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、当社第156回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成28年6月28日（火曜日）午後5時までに到着するようにご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

### 記

1. 日 時 平成28年6月29日（水曜日）午前10時
2. 場 所 神戸市中央区下山手通4丁目15番3号  
兵庫県農業共済会館 4階会議室  
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第156期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）事業報告、連結計算書類及び計算書類の内容報告の件
  2. 会計監査人及び監査役会の第156期連結計算書類監査結果報告の件決議事項
  - 第1号議案 剰余金の処分の件
  - 第2号議案 株式併合の件

以 上

1. 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
2. 事業報告、連結計算書類、計算書類及び株主総会参考書類の記載すべき事項を修正する必要がある場合は、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.nozawa-kobe.co.jp>）に掲載いたしますのでご了承ください。

## 事業報告

(平成27年4月1日から)  
(平成28年3月31日まで)

### I. 企業集団の現況に関する事項

#### 1. 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益及び雇用情勢の改善などが進み、景気は緩やかな回復基調が見られたものの、中国及び新興国の経済成長に対する減速懸念や原油価格下落の影響により弱含みの動きが見られました。建築材料業界におきましては、建設費高騰に伴う建設計画の延期・中止、投資マインドの低下等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「やすらぎと安心の創造」の経営理念のもと、環境負荷低減と施工現場省力化を実現し、顧客ニーズに対応する商品の拡充を図ってまいりました。

押出成形セメント板「アスロック」の新デザインとして、2014年度グッドデザイン賞を受賞した「グリッドデザインシリーズ」の新柄「ミクティルB」を平成27年4月に発売いたしました。グリッドデザインにつきましてはタイル調仕上げとなっており、タイルでは表現できない規則性のある不規則グリッドによるシャープなデザインに高い評価を頂いております。また、6月にはデザインパネル「プライムライン」に900幅タイプを追加発売いたしました。デザインパネルにつきましては、「プライムライン」の他多数のラインナップを取り揃えており、中国上海におきましても図書館などの文化施設や金融機関に採用されるなど、好評を頂いております。更に、10月には「アスロックタイルデコ」を開発、発売いたしました。乾式タイルと「アスロック」の素地リブが調和した独創的なテクスチャーが外壁意匠の幅を広げ、コストダウンにも貢献します。工法面においては、「アスロック」に多様な仕上げ材を取り付けることのできる当社オリジナルの専用工法である「アスロックレールファスナー工法」に、大型アルミパネル仕上げに対応する「レールファスナーストロング」を9月に発売いたしました。

販売部門では、技能工不足・工期短縮・現場環境改善に貢献する「アスロックLS工法(Labor Saving工法)」・「ニューセフティ工法」の商談量を増やし、デザイン・性能に好評を頂いております「グリッドデザインシリーズ」・「工場塗装品」の販売数量を伸ばすとともに、北陸新幹線の駅舎への採用に続き、平成28年3月26日に開業した北海道新幹線の駅舎及び施設にも採用頂きました。

生産部門では、NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動により、各工程の生産性を高め、品質の向上、コスト削減に努めました。

管理部門では、システム構築及び改善を進め、業務の効率化につなげるとともに、有利子負債を圧縮、財務体質の改善に取り組みました。

マインケミカル事業につきましては、販路の拡大に取り組みました結果、肥料の販売数量を伸ばしました。

これらの結果、品別売上高については、主力の押出成形セメント板「アスロック」は141億45百万円（前期比1.9%増加）、住宅用軽量外壁材は24億58百万円（前期比11.9%増加）となり、押出成形セメント製品関連合計では166億4百万円（前期比3.3%増加）に、耐火被覆等は16億43百万円（前期比30.2%増加）、スレート関連は9億36百万円（前期比2.4%減少）となったこと等から、当連結会計年度の売上高は218億21百万円（前期比4.1%増加）となりました。

利益面については、主力である押出成形セメント製品が伸長したことに加え、生産性の向上、製造原価低減並びに経費削減に努めました結果、営業利益は31億89百万円（前期比23.2%増加）、経常利益は31億33百万円（前期比19.7%増加）と、連結業績における営業利益、経常利益とも過去最高となりました。しかしながら、中国経済の減速の影響で建設並びに住宅売買が低迷したことにより、「野澤積水好施新型建材（瀋陽）有限公司」の保有する機械装置及び運搬具等有形固定資産の全額を減損損失に計上、当社グループへの影響額が6億60百万円となったこと等から、親会社株主に帰属する当期純利益は15億15百万円（前期比10.9%減少）となりました。

部門別の状況は次のとおりであります。

(1) 押出成形セメント製品部門（アスロック、住宅用軽量外壁材）

アスロックは、一般建築向け高付加価値商品の販売数量が伸長したこと等により、売上高は141億45百万円（前期比1.9%増加）となりました。住宅用軽量外壁材については売上高は24億58百万円（前期比11.9%増加）となりました。その結果、当部門の売上高は166億4百万円（前期比3.3%増加）となりました。

(2) スレート部門

住宅設備市場での競争の激化等により、当部門の売上高は9億36百万円（前期比2.4%減少）となりました。

(3) その他の部門

耐火被覆等工事が増加したこと等から、当部門の売上高は42億80百万円（前期比9.0%増加）となりました。

## 2. 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資は、埼玉工場及び播州工場の「アスロック」の製造設備の更新等を実施し、総額3億91百万円となりました。

### 3. 資金調達の状況

資金調達の安定化、資金効率・金融収支の改善を目的として、取引金融機関と総額20億円のコミットメントライン（特定融資枠）契約及び総額20億円のシンジケートローン契約を締結いたしております。

### 4. 対処すべき課題

わが国経済の見通しにつきましては、円高・株式市場の低迷を背景に、企業は設備投資計画に慎重な姿勢を見せるなど、先行き不透明な状況が続くものと思われま

す。このような状況のなか、当社グループは、体質強化・収益拡大・飛躍成長の各戦略の着実な実行により、強固な経営基盤を築き、更はその先の未来へ向けて大きく発展する企業を目指してまいります。平成28年3月にホームページを全面リニューアルいたしました。当社商品の施工例を建物用途・商品名から絞り込めるなど改良しており、当社商品がどのような場所で使われているかをわかりやすくご紹介するなど、全てのコンテンツをより「見やすく」・「わかりやすく」・「探しやすい」構成、デザインに一新しました。今後も皆様にとって使いやすいホームページを目指してまいります。

販売部門では、高層・超高層建築物外壁に要求される機能を備えた「アルカス」や、環境負荷低減をコンセプトとした「グリーンウォール」・「ソーラーウォール」の拡販を推進するとともに、現場省力化、工期短縮に寄与する商品の販売に引き続き注力し、受注数量を更に伸ばしてまいります。ボードにつきましては、内装、土木をはじめとした各市場において新規用途の開拓・提案を行い、商品開発につなげてまいります。

生産部門では、メーカーとして総合的な技術力の発展・深耕を推進し、NNPS改善活動により各工程の情報とモノの質を向上させ、品質・コスト・納期の差別化を追求してまいります。

開発部門では、市場環境の変化と多様化する顧客ニーズに対応し、安全・安心・快適性を提供できる商品構成の充実を図ってまいります。

管理部門では、業務効率化、有利子負債圧縮に加え各本部と連携した効率的な資材調達によるコスト削減を推進し、財務体質及び経営基盤の強化を図ってまいります。また、投資しやすい環境を整えることを目的として、平成28年10月1日より当社株式の単元株式数の変更及び株式併合を予定しております。

マインケミカル事業では、農家・農業法人との関係強化を図るとともに、培土や配合肥料等、原料用途での提案を推進し、更なる拡販につなげてまいります。

海外事業では、中国大都市圏を中心とした施主・設計院への「アスロック」のPR効果が現れ、文化施設の他、民間の大規模プロジェクトに全面採用されるなど、一般建築向けの販売数量を伸ばしております。「野澤貿易（上海）有限公司」は、今後も施主・設計院のニーズを掘り起こし提案する営業をより一層推進してまいります。「野澤積水好施新型建材（瀋陽）有限公司」は、顧客の求める品質を更に追求し、コストダウンに取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 5. 財産及び損益の状況

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (当連結会計年度)
売 上 高	千円 17,287,581	千円 20,203,414	千円 20,964,547	千円 21,821,979
経 常 利 益	千円 1,010,107	千円 2,231,201	千円 2,617,283	千円 3,133,061
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	千円 568,138	千円 858,957	千円 1,700,513	千円 1,515,847
1株当たり当期純利益	24円35銭	36円81銭	73円90銭	66円45銭
総 資 産	千円 22,747,875	千円 23,450,732	千円 23,516,068	千円 22,898,576
純 資 産	千円 9,809,093	千円 10,825,400	千円 12,744,426	千円 13,200,387

- (注) 1. 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
 2. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数から期中平均自己株式数を控除した株式数に基づいて算出しております。

## 6. 重要な親会社及び子会社の状況

### (1) 重要な親会社の状況

該当事項はありません。

### (2) 重要な子会社の状況

会 社 名	所 在 地	資本金	当 社 の 出 資 比 率	主 要 な 事 業 内 容
株 式 会 社 ノ ザ ワ 商 事	神戸市中央区	百万円 50	% 100	建設資材販売及び一般建設業
株式会社ノザワトレーディング	神戸市中央区	10	100	損害保険代理業及び生命保険募集業
野澤貿易(上海)有限公司	中国上海市	28	100	建築資材の販売と輸出入
野澤積水好施新型建材(瀋陽)有限公司	中国遼寧省瀋陽市	1,000	51	建築材料の生産と販売

(注) 出資比率は、間接保有割合を含んでおります。

## 7. 主要な事業内容 (平成28年3月31日現在)

当社グループは、押出成形セメント製品 (アスロック・住宅用軽量外壁材)、スレート、不燃混和材、耐火被覆材 (コーベックス) 等の製造・販売・施工及び石綿除去工事並びに建設資材販売、肥料の製造・販売、一般建設業、損害保険代理業、生命保険募集業を行っております。

## 8. 主要な事業所（平成28年3月31日現在）

### (1) 当 社

株式会社ノザワ	本 社	支 店	神戸市中央区浪花町15番地 札幌（札幌市） 仙台（仙台市） 東京（東京都中央区） 名古屋（名古屋市） 関西（神戸市） 広島（広島市） 九州（福岡市）
	工 場		埼玉（埼玉県吉見町） 播州（兵庫県播磨町） 高砂（兵庫県高砂市） フラノ（北海道富良野市）
	技術研究所		埼玉県深谷市

### (2) 子 会 社

株式会社ノザワ商事	本 社	支 店	神戸市中央区浪花町15番地 仙台（仙台市） 東京（東京都中央区） 関西（神戸市）
株式会社ノザワトレーディング	本 社		神戸市中央区浪花町15番地
野澤貿易(上海)有限公司	本 社		中国上海市
野澤積水好地新型建材（瀋陽）有限公司	本 社		中国遼寧省瀋陽市

## 9. 従業員の状況（平成28年3月31日現在）

### (1) 企業集団の従業員の状況

従業員数	（前期末比増減）
316名	（3名減）

（注） なお、従業員の中には臨時従業員95名（前期95名）は含んでおりません。

### (2) 当社の従業員の状況

従業員数	（前期末比増減）	平均年齢	平均勤続年数
281名	（5名減）	44.6歳	20.9年

（注） 年齢、勤続年数とも、小数点第2位以下を四捨五入して表示しております。  
なお、従業員の中には臨時従業員88名（前期88名）は含んでおりません。

## 10. 主要な借入先の状況（平成28年3月31日現在）

借 入 先	借入金残高
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	200,000千円
兵 庫 県 信 用 農 業 協 同 組 合 連 合 会	113,000
株 式 会 社 山 口 銀 行	75,000
株 式 会 社 み な と 銀 行	73,500

（注） 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## Ⅱ. 会社の株式に関する事項 (平成28年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数 60,000,000株
2. 発行済株式の総数 24,150,000株 (自己株式1,340,318株を含む)
3. 株主数 1,869名
4. 大株主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,471千株	6.44%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,225	5.37
株式会社三井住友銀行	1,135	4.97
神 栄 株 式 会 社	973	4.26
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	872	3.82
東京海上日動火災保険株式会社	618	2.71
C B C 株 式 会 社	603	2.64
日 工 株 式 会 社	568	2.49
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	525	2.30
株 式 会 社 ト ク ヤ マ	525	2.30

- (注) 1. 持株数は千株未満の端数を、持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。  
2. 当社は自己株式 (1,340,318株) を保有しておりますが、上記大株主から除いております。  
3. 持株比率は、自己株式数を控除して計算しております。

## Ⅲ. 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

#### IV. 会社役員に関する事項

##### 1. 取締役及び監査役の状況（平成28年3月31日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	野 澤 俊 也	
専務取締役	佐々木 三七司	技術管掌
専務取締役	三 原 伸 夫	管理本部長 兼(株)ノザワ商事監査役 兼野澤貿易(上海)有限公司監事
専務取締役	田 淵 義 章	販売本部長 兼野澤積水好施新型建材(瀋陽)有限公司董事長
常務取締役	坂 本 茂 紀	販売本部副本部長 兼建設商品部長 兼(株)ノザワ商事取締役
取 締 役	三 浦 竜 一	技術本部長 兼生産技術部長兼エンジニアリング部長 兼開発部長
取 締 役	肥 後 竜 也	東京支店長 兼マイケミカル事業部長
取 締 役	松 村 正 昭	埼玉工場長
取 締 役	西 岡 誠 司	管理本部副本部長兼総務部長 兼野澤積水好施新型建材(瀋陽)有限公司監事
取 締 役	羽 尾 良 三 ※	弁護士 垂水ゴルフ(株)監査役 (株)新井組社外監査役 明貨トラック(株)監査役 甲南大学法科大学院教授
取 締 役	犬 賀 一 志 ※	ビオフェルミン製薬(株)社外監査役
常勤監査役	松 永 豊	(株)ノザワ商事監査役
監 査 役	吉 田 眞 明	税理士
監 査 役	檀 上 秀 逸 ※	公認会計士

- (注) 1. 取締役羽尾良三氏、犬賀一志氏は、社外取締役であります。  
取締役犬賀一志氏は、平成27年6月24日付でビオフェルミン製薬(株)の社外監査役に就任いたしました。
2. 監査役吉田眞明氏、檀上秀逸氏は、社外監査役であります。
3. 常勤監査役松永豊氏は、多年にわたり当社の管理本部担当取締役を経験しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。  
監査役吉田眞明氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。  
監査役檀上秀逸氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 当社は、羽尾良三氏、犬賀一志氏及び吉田眞明氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。



5. 上記の※の各氏は、平成27年6月26日開催の第155回定時株主総会において新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
6. 当事業年度中に退任した監査役  
羽尾良三氏、犬賀一志氏は、平成27年6月26日開催の第155回定時株主総会において監査役（社外監査役）を任期満了により退任した後、新たに取締役（社外取締役）に選任され就任いたしました。
7. 当事業年度中の取締役の地位・担当等の異動  
平成27年6月26日付

氏名	変更前	変更後
坂本茂紀	常務取締役 販売本部副本部長 兼建設商品部長 兼建設技術部長	常務取締役 販売本部副本部長 兼建設商品部長 兼建設技術部長 兼㈱ノゾワ商事取締役
肥後竜也	取締役 東京支店長 兼マインケミカル事業部長 兼㈱ノゾワ商事取締役	取締役 東京支店長 兼マインケミカル事業部長

平成28年3月1日付

氏名	変更前	変更後
佐々木三七司	専務取締役 技術本部長 兼生産技術部長 兼エンジニアリング部長	専務取締役 技術管掌
三浦竜一	取締役 兼開発部長	取締役 技術本部長 兼生産技術部長 兼エンジニアリング部長 兼開発部長
坂本茂紀	常務取締役 販売本部副本部長 兼建設商品部長 兼建設技術部長 兼㈱ノゾワ商事取締役	常務取締役 販売本部副本部長 兼建設商品部長 兼㈱ノゾワ商事取締役

## 2. 取締役及び監査役の報酬等の総額

取締役 11名 268,056千円（うち社外取締役 2名 6,002千円）

監査役 5名 18,800千円（うち社外監査役 4名 8,000千円）

- (注) ① 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
② 上記の監査役の支給人員には、平成27年6月26日開催の第155回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した監査役2名を含んでおります。

### 3. 社外役員に関する事項

(1) 重要な兼職先である他の法人等と当社の関係

社外取締役羽尾良三氏の兼職先である垂水ゴルフ(株)、(株)新井組、明貨トラック(株)、甲南大学法科大学院とは特別な関係はありません。

社外取締役犬賀一志氏の兼職先であるビオフェルミン製薬(株)とは特別な関係はありません。

(2) 当事業年度における主な活動の状況

区分	氏名	主な活動状況
社外取締役	羽尾 良三	当事業年度において、平成27年6月26日に監査役を退任するまでに開催された取締役会には4回中4回、監査役会には、6回中6回出席しました。また、平成27年6月26日に取締役に就任以降、当事業年度の取締役会には、11回中11回出席しました。主に弁護士としての専門的見地からの発言を行っております。
社外取締役	犬賀 一志	当事業年度において、平成27年6月26日に監査役を退任するまでに開催された取締役会には4回中4回、監査役会には、6回中6回出席しました。また、平成27年6月26日に取締役に就任以降、当事業年度の取締役会には、11回中11回出席しました。主に金融機関での長年の経験から幅広い視点での発言を行っております。
社外監査役	吉田 眞明	当事業年度に開催された取締役会には、15回中15回、また監査役会には18回中18回出席し、主に税理士としての専門的見地からの発言を行っております。
社外監査役	檀上 秀逸	監査役就任後に開催された当事業年度の取締役会には、11回中11回、また監査役会には12回中12回出席し、主に公認会計士としての専門的見地からの発言を行っております。

### 4. 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役羽尾良三氏、同犬賀一志氏、及び、監査役吉田眞明氏、同檀上秀逸氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

## V. 会計監査人の状況

### 1. 名称

新日本有限責任監査法人

### 2. 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人としての報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬額	25,000千円
当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	25,000千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記金額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、取締役からの報告を通じて、監査内容、監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、当該事業年度の監査時間及び報酬額の見積もりの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

### 3. 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### 4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

### 5. 会計監査人が過去2年間に受けた業務停止処分

金融庁が平成27年12月22日付で発表した懲戒処分の内容の概要

- ① 処分の対象者  
新日本有限責任監査法人
- ② 処分の内容
  - ・ 3ヶ月の業務一部停止（契約の新規の締結に関する業務の停止）  
（平成28年1月1日から同年3月31日まで）
  - ・ 業務改善命令（業務管理体制の改善）
- ③ 処分理由
  - ・ 他社の財務書類の監査において、相当の注意を怠り、重大な虚偽のある財務書類を重大な虚偽のないものとして証明したため。
  - ・ 運営が著しく不当と認められたため。

## VI. 会社の体制及び方針

### 1. 業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項

#### (1) 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- ① 企業行動指針をはじめとするコンプライアンス体制に係る規程を定め、法令・定款及び社会規範を遵守した行動規範とする。
- ② コンプライアンス推進委員会を所管するコンプライアンス担当取締役は、全社横断的なコンプライアンス体制の整備及び問題点の把握に努める。コンプライアンス担当取締役を委員長とする社内倫理委員会において、コンプライアンス上の重要な問題を審議し、その結果を取締役会へ報告し是正を図る。
- ③ 取締役及び監査役が当社における重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合には直ちに社内倫理委員会事務局に報告するものとする。使用人がコンプライアンス上問題ある行為等について発見した場合には、コンプライアンス・ホットラインを通じて直接情報提供を行う。

#### (2) 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する文書管理規程を定める。
- ② 取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し保存する。取締役及び監査役は、これらの文書等を閲覧できるものとする。

#### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① リスク管理体制の基礎として、リスク管理規程を定め同規程に従ったリスク管理体制を構築する。
- ② 不測の事態が発生した場合には、担当取締役は社長に報告し対策本部を設け迅速に対応する。

#### (4) 取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するため、定時取締役会を月1回、必要に応じて臨時取締役会を適宜開催する。当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については、事前に社長及び本部長を委嘱された取締役で構成する本部長会を経て、取締役会で審議・承認を行うものとする。
- ② 取締役会の決定に基づく業務執行については、業務運営規則に、それぞれの責任者及びその責任、執行手続きの詳細について定めるものとする。

- (5) 当会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ① 当社及び当社グループにおける内部統制の構築を目指し、当社にグループ全体の内部統制に関する部署を設け、当社及び当社グループ間での内部統制に関する協議、情報の共有化、指示、要請の伝達等が効率的に行われるシステムを含む体制を構築する。
  - ② 当社取締役及び当社グループの社長は、各部門の業務執行の適正を確保する内部統制の確立と運用の権限と責任を有する。
  - ③ 監査室は、当社及び当社グループの内部監査を実施し、その結果を当社取締役及び監査役、当社グループの社長に報告する。監査室は必要に応じて、内部統制の改善策を指導、実施の支援・助言を行う。
  - ④ 当社は、子会社の管理責任を明確にするため、子会社毎に担当役員を定める。子会社の役員は、定期的に当社の担当役員へ、業績・その他重要な情報を報告する。
- (6) 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 監査役は、監査室所属の使用人に監査業務に必要な事項を命令することができるものとし、監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人はその命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。
- (7) 監査役職務を補助すべき使用人に対する実効性の確保に関する事項
- 当社は、監査役職務を補助すべき使用人に関し、監査役の指揮命令に従う旨を当社及び当社グループの役員および使用人に周知徹底する。
- (8) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
- ① 取締役または使用人は、監査役に対して、法定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス・ホットラインによる通報状況及びその内容を報告する。監査役は、必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができるものとする。
  - ② 当社は、上記の報告および上記1. (1)③の情報提供を行った役員・使用人に対し、いかなる不利益な取り扱いも行わない。

(9) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役は、顧問弁護士及び監査契約を締結した監査法人の公認会計士より、監査業務に関する助言を受けることができる。
- ② 監査役は、社長・取締役と定期的に意見交換を行う。

(10) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役がその職務の執行について、当社に対し、費用の前払い等の請求をしたときは、担当部署において審議の上、当該請求に係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

取締役の職務の執行については、取締役会を年15回開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項の決定、業務執行状況の報告及び監督を行いました。

コンプライアンス体制については、コンプライアンス体制に係る規程の運用を図るとともに、コンプライアンス意識の向上を目的として社内研修を実施しました。

リスク管理体制については、リスク管理規程の運用を図り、情報セキュリティーポリシーの改定等、必要に応じて対応を実施しました。

内部監査については、当社及びグループ会社を対象に業務の遂行状況、内部統制システムの運用状況や会計に関する監査を実施し、必要に応じて改善策を講じました。

監査役の監査体制については、監査役会を年18回開催し、監査方針・監査計画の決定、取締役の職務執行の監査、内部統制システムの運用状況を確認しました。

監査役は監査室(監査役の職務を補助すべき使用人1名)と監査計画策定、内部監査での問題点に関する意見交換を随時行い、主な事業所などについては実地監査を行いました。また、社外取締役及び会計監査人とは定期的に情報共有を行いました。

### 3. 会社の支配に関する基本方針

#### (1) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様のご決定に委ねられるべきだと考えています。

ただし、株式の大規模買付提案の中には、たとえばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。

そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者の責務として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行う必要があると考えています。

#### (2) 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取り組み

当社の中長期的な経営基本戦略等当社の目標としております企業像は下記のとおりです。

1. 建設部材、システム分野での開発型企業を目指し、建築・住宅・土木の3市場での安定的な商品供給による強固な経営基盤を持つ企業
2. 技術力を背景とした差別化（品質・納期・コストの絶対的優位性）を推進するオンリーワン企業
3. 環境保全を主眼においた次世代の事業を模索し、人々にやすらぎと安心を提供し、社会への貢献を企業の発展と考える企業

これらを実現するため、「安全第一・法令遵守・人権尊重・環境保全」の基本原則を大前提に、当社の経営の2本柱である中長期計画、NNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）活動を着実に実行することによって、当社のもつ経営資源を有効に活用するとともに、様々なステークホルダーとの良好な関係を継続、発展させ、当社及び当社グループ会社の企業価値及び株主共同の利益の向上に繋げられるものと考えております。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、平成20年6月27日開催の定時株主総会において、買収防衛策の導入根拠、手続き等を定めた定款変更議案及び変更された定款に基づき当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）（以下「本プラン」といいます。）の導入について株主の皆様のご承認をいただき、また平成26年6月27日開催の定時株主総会において本プランの継続についてご承認をいただき、現在に至っております。

本プランは、当社株式に対する買付が行われた際、買付に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために買付者と交渉を行うこと等を可能とするものであり、当社の企業価値・株主共同の利益を毀損する買付等を阻止し、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的としております。

本プランにおきましては、(i)当社が発行者である株式等について、保有者の株式等保有割合が20%以上となる買付、または(ii)当社が発行者である株式等について、公開買付に係る株式等の株式等所有割合及びその特別関係者の株式等所有割合の合計が20%以上となる公開買付またはこれらに類似する行為（以下「買付等」と総称します。）を対象とします。

当社の株式等について買付等が行われる場合、当該買付等に係る買付者等には、買付等の内容の検討に必要な情報及び当該買付者等が買付等に際して本プランに定める手続きを遵守する旨の誓約文言等を記載した書面の提出を求めます。その後、買付者等から提出された情報、当社取締役会からの意見や根拠資料、当該買付等に対する代替案等が、経営陣から独立した者より構成される独立委員会に提供され、その評価、検討を経るものとします。独立委員会は、必要に応じて、外部専門家等の助言を独自に得たうえ、買付内容の評価・検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、株主に対する情報開示等を行います。

独立委員会は、買付者等が本プランに規定する手続きを遵守しなかった場合、または買付者等の買付等の内容の検討、買付者等との協議・交渉の結果、当該買付等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうおそれのある買付等である場合等、本プランに定める要件のいずれかに該当し、対抗措置を発動することが相当であると判断した場合には、当社取締役会に対して、対抗措置を発動すべき旨、または株主の意思を確認すべき旨を勧告します。当社取締役会は、この勧告または株主意思確認総会若しくは書面投票の決定に基づき、原則として新株予約権の無償割当ての実施を決議し、別途定める割当期日における当社の最終の株主名簿に記録された当社以外の株主に対し、その保有する当社株式1株につき新株予約権2個を上限として別途定める割合で、新株予約権を無償で割当てます。



当社取締役会は、上記取締役会決議を行った場合速やかに、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、情報開示を行います。

**(4) 上記取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由**

上記(2)に記載した基本方針の実現に資する特別な取り組みは、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資する具体的方策であり、まさに当社の基本方針に沿うとともに、当社の株主共同の利益に資するものであり、また、当社の経営陣の地位の維持を目的とするものではありません。

また、本プランは、上記(3)に記載のとおり、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、基本方針に沿うものです。特に、本プランは、株主意思を重視するものであること、その内容として合理的な客観的発動要件が設定されていること、独立性の高い社外者によって構成される独立委員会が設置されており、本プランの発動に際しては必ず独立委員会の判断または株主意思の確認を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家の助言を得ることができるとされていること、有効期間が3年間と定められたうえ、株主総会または取締役会でいつでも廃止できるとされていることなどにより、その公正性・客観性が担保されており、高度の合理性を有し、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の経営陣の地位の維持を目的とするものではありません。

## 連結貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>(10,057,155)</b>	<b>流動負債</b>	<b>(5,476,429)</b>
現金及び預金	3,815,386	支払手形及び買掛金	2,741,281
受取手形及び売掛金	4,322,595	短期借入金	559,000
商品及び製品	384,460	リース債務	28,347
仕掛品	3,624	未払法人税等	694,338
原材料及び貯蔵品	148,795	賞与引当金	277,300
未成工事支出金	302,967	資産除去債務	3,095
繰延税金資産	200,153	その他	1,173,066
その他	882,328	<b>固定負債</b>	<b>(4,221,758)</b>
貸倒引当金	△3,155	長期借入金	345,000
<b>固定資産</b>	<b>(12,841,420)</b>	リース債務	49,819
(有形固定資産)	(9,558,258)	再評価に係る繰延税金負債	1,466,739
建物及び構築物	2,032,689	退職給付に係る負債	1,955,570
機械装置及び運搬具	672,588	資産除去債務	13,659
土地	6,473,480	その他	390,969
リース資産	73,701	<b>負債合計</b>	<b>9,698,188</b>
建設仮勘定	131,804	<b>(純資産の部)</b>	
その他	173,993	<b>株主資本</b>	<b>(9,425,801)</b>
(無形固定資産)	(19,212)	資本金	2,449,000
電話加入権	8,359	資本剰余金	1,470,572
ソフトウェア	9,321	利益剰余金	5,764,529
その他	1,531	自己株式	△258,300
(投資その他の資産)	(3,263,949)	その他の包括利益累計額	<b>(3,774,586)</b>
投資有価証券	2,387,948	その他有価証券評価差額金	530,929
繰延税金資産	365,995	土地再評価差額金	3,142,030
その他	588,110	為替換算調整勘定	273,273
貸倒引当金	△78,104	退職給付に係る調整累計額	△171,646
<b>資産合計</b>	<b>22,898,576</b>	<b>純資産合計</b>	<b>13,200,387</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>22,898,576</b>

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
その他の注記事項は、連結注記表に記載しております。

## 連結損益計算書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		21,821,979
売上原価		14,117,802
売上総利益		7,704,177
販売費及び一般管理費		4,514,470
営業利益		3,189,706
営業外収益		
受取利息	618	
受取配当金	49,393	
その他	37,039	87,051
営業外費用		
支払利息	27,288	
その他	116,407	143,696
経常利益		3,133,061
特別利益		
固定資産売却益	559	559
特別損失		
固定資産除却損	29,676	
減損損失	1,294,660	1,324,337
税金等調整前当期純利益		1,809,284
法人税、住民税及び事業税	1,110,431	
法人税等調整額	△120,870	989,561
当期純利益		819,723
非支配株主に帰属する当期純損失		△696,123
親会社株主に帰属する当期純利益		1,515,847

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
その他の注記事項は、連結注記表に記載しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：千円)

項 目	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
平成27年4月1日残高	2,449,000	1,470,572	4,476,800	△257,088	8,139,284
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△228,118		△228,118
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,515,847		1,515,847
自己株式の取得				△1,211	△1,211
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,287,728	△1,211	1,286,516
平成28年3月31日残高	2,449,000	1,470,572	5,764,529	△258,300	9,425,801

項 目	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額					非支配株 主 持 分	純 資 産 計 合
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
平成27年4月1日残高	703,376	3,061,930	276,382	△135,421	3,906,267	698,874	12,744,426
連結会計年度中の変動額							
剰 余 金 の 配 当							△228,118
親会社株主に帰属する 当期純利益							1,515,847
自己株式の取得							△1,211
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△172,446	80,099	△3,109	△36,224	△131,680	△698,874	△830,555
連結会計年度中の変動額合計	△172,446	80,099	△3,109	△36,224	△131,680	△698,874	455,961
平成28年3月31日残高	530,929	3,142,030	273,273	△171,646	3,774,586	—	13,200,387

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

その他の注記事項は、連結注記表に記載しております。

## 連 結 注 記 表

### 1. 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

### 2. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

- ① 連結子会社の数及び名称 4社（㈱ノザワ商事、㈱ノザワトレーディング、野澤貿易（上海）有限公司、野澤積水好施新型建材（瀋陽）有限公司）
- ② 非連結子会社 該当事項はありません。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社がないため、該当事項はありません。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

在外連結子会社2社の決算日は12月31日であり、連結決算日との差異が3ヶ月を超えないため、当該事業年度に係る財務諸表を基礎として連結計算書類を作成し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### (4) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### イ. 有価証券

その他有価証券……時価のあるもの

連結会計年度末日前1ヶ月の市場価格の平均に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

###### ロ. たな卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

……移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

未完工事支出金……個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

##### ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

……………建物及び埼玉工場以外の資産については定率法を採用しております。なお、建物及び埼玉工場の資産については定額法を採用しております。

無形固定資産（リース資産を除く）

……………定額法を採用しております。ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産……………所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

長期前払費用……………均等償却を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討して計上しております。

賞与引当金……………従業員に対して支給する賞与に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

(5) その他連結計算書類作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理……………税抜方式によっております。

② 収益及び費用の計上基準……………完成工事高の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

③ 退職給付に係る会計処理の方法……………退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。……数理計算上の差異の費用処理方法  
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

- ④ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準…………… 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。
- (6) 会計方針の変更  
 企業結合に関する会計基準等の「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を当連結会計年度より適用し、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 17,685,347千円

(2) 担保に供している資産及び対応する債務

#### ① 担保に供している資産

工場財団

建物及び構築物 799,830千円

機械装置及び運搬具 642,756千円

土地 5,507,920千円

小計 6,950,506千円

その他

投資有価証券 175,102千円

小計 175,102千円

合計 7,125,609千円

#### ② 担保に係る債務

長期借入金 215,000千円

(1年以内返済予定分を含む)

支払手形及び買掛金 108,845千円

#### (3) 偶発債務

平成19年10月1日付けで石綿健康障害による労災認定者であり当社グループの事業活動と直接因果関係が認められるものに対する補償制度を導入したことから、将来当該制度に基づき補償負担が発生する可能性があります。

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数 普通株式 24,150,000株

(2) 当連結会計年度末における自己株式の種類及び総数 普通株式 1,340,318株

(3) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

#### ① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	228,118千円	10円	平成27年 3月31日	平成27年 6月29日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成28年6月29日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり付議いたします。

付議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	296,525千円	13円	平成28年 3月31日	平成28年 6月30日



## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の用途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額（※）	時価（※）	差額
① 現金及び預金	3,815,386	3,815,386	—
② 受取手形及び売掛金	4,322,595	4,322,595	—
③ 投資有価証券			
その他有価証券	2,338,842	2,338,842	—
④ 支払手形及び買掛金	(2,741,281)	(2,741,281)	—
⑤ 短期借入金	(559,000)	(559,000)	—
⑥ 長期借入金	(345,000)	(345,000)	—

（※） 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

### （注1）金融商品の時価の算定方法

#### ① 現金及び預金、並びに② 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### ③ 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

#### ④ 支払手形及び買掛金、並びに⑤ 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### ⑥ 長期借入金

長期借入金は、全て変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映し、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

（注2）非上場株式（連結貸借対照表計上額49,106千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「③投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

## 6. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産については、賃貸等不動産の連結決算日における時価を基礎とした金額が、当該時価を基礎とした総資産との比較において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## 7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	578円72銭
(2) 1株当たり当期純利益	66円45銭

## 8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 9. その他の注記事項に関する注記

### (1) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日 公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日 公布法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行っております。なお、再評価差額については、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

#### 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日 公布政令第119号）第2条第3号に定める地方税法第341条第10号の土地課税台帳又は同条第11号の土地補充課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算定する方法及び同施行令第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定する方法

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

△2,860,046千円

(2) 手形流動化に伴う裏書譲渡高	2,581,662千円
-------------------	-------------

(3) 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	場所	減損損失	
		種類	金額 (千円)
事業用資産	野澤積水好施新型建材 (瀋陽) 有限公司 (中国遼寧省瀋陽市)	機械装置及び 運搬具	1,293,768
		その他	892

(グルーピングの方法)

当社グループは、製品群別の資産グループをキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としております。

なお、連結子会社については、規模等を鑑み、会社単位を基準としてグルーピングを行っております。

(経緯)

連結子会社である野澤積水好施新型建材 (瀋陽) 有限公司における事業用資産は、収益性の低下により、投資額の回収が見込めなくなったため減損損失を認識いたしました。

(回収可能価額の算定方法)

当該資産の回収可能価額は使用価値により算定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため、回収可能価額はないと評価しております。

# 貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>(8,728,258)</b>	<b>流動負債</b>	<b>(5,324,836)</b>
現金及び預金	3,689,851	支払手形	1,320,142
受取掛手形	1,773,241	買掛金	1,373,585
売掛金	1,965,162	短期借入金	144,000
商品及び製品	361,912	1年内返済予定の長期借入金	415,000
仕掛品	3,624	関係会社短期借入金	592,611
原材料及び貯蔵品	91,112	リース債	28,347
未成工事支出金	12,622	未払金	175,967
前払費用	110,402	未払費用	301,095
繰延税金資産	183,182	未払法人税等	613,423
未収入金	514,616	預り金	42,813
貸倒引当金	23,529	賞与引当金	258,000
	△1,000	設備関係支払手形	54,825
<b>固定資産</b>	<b>(12,956,496)</b>	資産除去債	3,095
(有形固定資産)	(9,560,792)	その他	1,929
建物	1,961,217	<b>固定負債</b>	<b>(3,766,252)</b>
構築物	71,405	長期借入金	100,000
機械及び装置	658,883	リース債	49,819
車両運搬具	16,602	再評価に係る繰延税金負債	1,466,739
工具、器具及び備品	173,695	退職給付引当金	1,708,115
土地	6,473,480	受入保証金	363,990
建物	73,701	資産除去債	13,659
建設仮勘定	131,804	その他	63,929
(無形固定資産)	(18,843)	<b>負債合計</b>	<b>9,091,088</b>
電話加入権	7,990	<b>(純資産の部)</b>	
ソフトウェア	9,321	<b>株主資本</b>	<b>(8,922,179)</b>
その他の資産	1,531	資本	2,449,000
(投資その他の資産)	(3,376,860)	資本剰余金	1,190,882
投資有価証券	2,345,747	資本準備金	612,250
関係会社株	40,000	その他資本剰余金	578,632
出資	20	利益剰余金	5,635,420
従業員に対する長期貸付金	2,166	その他利益剰余金	5,635,420
関係会社長期貸付金	255,000	繰越利益剰余金	5,635,420
破産更生債権等	28,550	自己株	△353,123
長期前払費用	18,650	<b>評価・換算差額等</b>	<b>(3,671,486)</b>
差入保証金	206,550	その他有価証券評価差額金	529,456
保険積立金	273,059	土地再評価差額金	3,142,030
繰延税金資産	290,961	<b>純資産合計</b>	<b>12,593,666</b>
貸倒引当金	△83,844	<b>負債純資産合計</b>	<b>21,684,754</b>
<b>資産合計</b>	<b>21,684,754</b>		

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

その他の注記事項は、個別注記表に記載しております。

# 損 益 計 算 書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		18,153,521
売 上 原 価		10,963,977
売 上 総 利 益		7,189,544
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		4,139,939
営 業 利 益		3,049,604
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	7,452	
受 取 配 当 金	48,953	
そ の 他	42,131	98,537
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	30,027	
そ の 他	138,784	168,812
経 常 利 益		2,979,328
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	559	559
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	29,676	
関 係 会 社 出 資 金 評 価 損	509,999	539,676
税 引 前 当 期 純 利 益		2,440,212
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,012,503	
法 人 税 等 調 整 額	△128,211	884,292
当 期 純 利 益		1,555,920

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
その他の注記事項は、個別注記表に記載しております。

## 株主資本等変動計算書

（平成27年4月1日から）  
（平成28年3月31日まで）

（単位：千円）

項 目	株 主 資 本					
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 計 合
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	そ の 他 利 益 剰 余 金 繰 越 利 益 剰 余 金		
平成27年4月1日残高	2,449,000	612,250	578,632	4,307,618	△351,911	7,595,589
事業年度中の変動額						
剰余金の配当				△228,118		△228,118
当期純利益				1,555,920		1,555,920
自己株式の取得					△1,211	△1,211
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						
事業年度中の変動額合計	－	－	－	1,327,802	△1,211	1,326,590
平成28年3月31日残高	2,449,000	612,250	578,632	5,635,420	△353,123	8,922,179

項 目	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
平成27年4月1日残高	697,310	3,061,930	3,759,241	11,354,830
事業年度中の変動額				
剰余金の配当				△228,118
当期純利益				1,555,920
自己株式の取得				△1,211
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	△167,854	80,099	△87,754	△87,754
事業年度中の変動額合計	△167,854	80,099	△87,754	1,238,835
平成28年3月31日残高	529,456	3,142,030	3,671,486	12,593,666

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
その他の注記事項は、個別注記表に記載しております。

## 個 別 注 記 表

### 1. 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

### 2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

子会社株式……………移動平均法による原価法

その他有価証券……………時価のあるもの

当事業年度末日前1ヶ月の市場価格の平均に基づく時  
価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売  
却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ② たな卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

……………移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収  
益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

未成工事支出金

……………個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性  
の低下による簿価切下げの方法により算定）

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

……………建物及び埼玉工場以外の資産については定率法を採用し  
ております。なお、建物及び埼玉工場の資産については  
定額法を採用しております。

無形固定資産（リース資産を除く）

……………定額法を採用しております。ただし、ソフトウェア（自  
社利用分）については、社内における利用可能期間（5  
年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産……………所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資  
産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を  
ゼロとする定額法によっております。

長期前払費用……………均等償却を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

- 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討して計上しております。
- 賞与引当金……………従業員に対して支給する賞与に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。
- 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により翌事業年度から費用処理しております。

(4) その他計算書類作成のための重要な事項

- ① 消費税等の会計処理……………税抜方式によっております。
- ② 収益及び費用の計上基準……………完成工事高の計上基準  
当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。
- ③ 退職給付に係る会計処理……………退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。



### 3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 17,151,632千円

(2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

① 短期金銭債権

受取手形	238,468千円
売掛金	35,570千円

② 短期金銭債務

支払手形	263,210千円
買掛金	9,367千円

(3) 担保に供している資産及び対応する債務

① 担保に供している資産

工場財団	
建 物	732,860千円
構 築 物	66,970千円
機 械 及 び 装 置	642,756千円
土 地	5,507,920千円
小 計	6,950,506千円

そ の 他	
投 資 有 価 証 券	175,102千円
小 計	175,102千円
合 計	7,125,609千円

② 担保に係る債務

長期借入金	215,000千円
(1年以内返済予定分を含む)	
支払手形	77,433千円
買掛金	31,412千円

(4) 保証債務

関係会社の仕入債務に対する債務保証	
(株)ノザワ商事	73,873千円

(5) 偶発債務

平成19年10月1日付けで石綿健康障害による労災認定者であり当社の事業活動と直接因果関係が認められるものに対する補償制度を導入したことから、将来当該制度に基づき補償負担が発生する可能性があります。

#### 4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

① 営業取引による取引高	
売上高	585,133千円
仕入高	188,683千円
② 営業取引以外の取引高	26,667千円

#### 5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び総数                                  普通株式 1,340,318株

#### 6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産・繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

賞与引当金	79,489千円
投資有価証券評価損否認	1,382千円
退職給付引当金等	524,945千円
貸倒引当金繰入限度超過額	25,945千円
ゴルフ会員権評価損否認	2,163千円
未払費用等否認	63,196千円
減損損失	24,322千円
役員退職慰労金	18,580千円
未払事業税	39,383千円
関係会社出資金評価損	164,520千円
その他	13,138千円
繰延税金資産小計	957,068千円
評価性引当額	△248,704千円
繰延税金資産合計	708,364千円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	233,229千円
資産除去債務	991千円
繰延税金負債合計	234,220千円
繰延税金資産純額	474,143千円

(2)再評価に係る繰延税金負債の内訳

(繰延税金資産)

土地の再評価に係る繰延税金資産 57,377千円

評価性引当額 △57,377千円

土地の再評価に係る繰延税金資産合計 -千円

(繰延税金負債)

土地の再評価に係る繰延税金負債 1,466,739千円

土地の再評価に係る繰延税金負債純額 1,466,739千円

法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は前事業年度の計算において使用した32.3%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.8%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は23,895千円減少し、法人税等調整額が36,629千円、その他有価証券評価差額金が12,736千円、それぞれ増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は80,099千円減少し、土地再評価差額金が同額増加しております。

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社

名 称	議決権等の所有割合(%)	議決権等の被所有割合(%)	取引の内容	取引金額(千円)	取引条件及び取引条件の決定方針	科 目	期末残高(千円)
株式会社ノザワ商事	100	—	商品及び製品の売	560,417	注1・2・3	受取手形売掛金	238,468 35,570
			工事の発注及び原材仕入	188,683	注1・2・3	支払手形買掛金	263,210 9,367
			保証債務	73,873	注4	—	—
			事務所の貸賃	4,140	注1・2	—	—
野澤積水好施新型建材(瀋陽)有限公司	51	—	資金の付貸	—	注1	関係会社貸付金	255,000

注1. 一般的な取引条件を勘案して合理的に決定しております。

注2. 取引金額には消費税等は含まれておりません。

注3. 期末残高には消費税等が含まれております。

注4. 当社は、子会社の仕入債務に対して、債務保証を行っております。

## 8. 1株当たり情報に関する注記

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 552円12銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 68円21銭  |

## 9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 10. その他の注記に関する事項

### (1) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日 公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日 公布法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行っております。なお、再評価差額については、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

#### 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日 公布政令第119号）第2条第3号に定める地方税法第341条第10号の土地課税台帳又は同条第11号の土地補充課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算定する方法及び同施行令第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定する方法

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

△2,860,046千円

### (2) 手形流動化に伴う裏書譲渡高

2,581,662千円

### (3) 株式併合

当社は、平成28年3月7日開催の取締役会において、平成28年6月29日開催予定の第156回定時株主総会に、株式併合について付議することを決議いたしました。

#### ① 株式併合の目的

全国証券取引所は、「売買単位の集約に向けた行動計画」を発表し、平成30年10月1日までに全国証券取引所に上場する国内会社の普通株式の売買単位を100株に集約することをめざした取り組みを進めております。当社は東京証券取引所に上場する企業としてこの趣旨を尊重し、当社株式の単元株式数を現在の1,000株から100株に変更することといたしました。併せて、当社株式につき、全国証券取引所が望ましいとしている投資単位（1単元株式数あたりの金額）の水準（5万円以上50万円未満）及び中長期的な株価変動等も勘案し、当社株式に対し、より投資しやすい環境を整えることを目的として、株式併合（2株を1株に併合）の実施を本定時株主総会に付議いたします。なお、発行可能株式総数については、株式併合の割合に応じて、現行の6,000万株から3,000万株に変更することといたします。

#### ② 株式併合の内容

併合する株式の種類  
併合の方法・比率

普通株式  
平成28年10月1日をもって、同年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主様の所有株式数を基準に、2株につき1株の割合をもって併合いたします。

併合により減少する株式数

株式併合前の発行済株式総数（平成28年3月31日現在）	24,150,000 株
株式併合により減少する株式数	12,075,000 株
株式併合後の発行済株式総数	12,075,000 株

(注)「株式併合により減少する株式数」及び「株式併合後の発行済株式総数」は、株式併合前の発行済株式総数及び株式併合の併合割合に基づき算出した理論値です。

#### ③ 株式併合の条件

平成28年6月29日開催予定の第156回定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されることを条件といたします。

#### ④ 株式併合による影響

株式併合により、発行済株式総数が2分の1に減少することとなりますが、純資産等は変動いたしませんので、1株当たりの純資産額は2倍となります。株式市況の変動など他の要因を除けば、当社株式の資産価値に変動はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成28年5月23日

株式会社 ノ ザ ワ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 小 川 佳 男 <sup>Ⓔ</sup>
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 増 田 豊 <sup>Ⓔ</sup>

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ノザワの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ノザワ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

平成28年5月23日

株式会社 ノ ザ ワ  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 小 川 佳 男 <sup>Ⓔ</sup>
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 増 田 豊 <sup>Ⓔ</sup>

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ノザワの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第156期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上



# 監査役会の監査報告書謄本

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第156期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。  
(2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の用人人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び用人人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び用人人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
- ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
- ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及び附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員としての地位の維持を目的とするものではないと認めます。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

#### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成28年5月25日

株式会社 ノザワ 監査役会  
常勤監査役 松 永 豊 ㊟  
社外監査役 吉 田 眞 明 ㊟  
社外監査役 檀 上 秀 逸 ㊟

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、当期の業績、経営環境、将来の事業展開に備えた内部留保、安定的な配当の維持等を勘案し行うこととしております。

当期末配当につきましては、1株につき13円とさせていただきます。存じます。

期末配当に関する事項

(1) 配当財産の種類

金銭といたします。

(2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき 金13円 総額 296,525,866円

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成28年6月30日

### 第2号議案 株式併合の件

1. 株式併合を行う理由

全国証券取引所は、「売買単位の集約に向けた行動計画」を発表し、上場する国内会社の普通株式の売買単位を100株に統一することを目指しております。

当社は、東京証券取引所に上場する企業としてこの趣旨を尊重し、当社株式の売買単位を100株に変更するとともに、証券取引所が望ましいとする投資単位の水準（5万円以上50万円未満）を維持することを目的として、株式の併合を行うものであります。

2. 株式併合の割合

当社普通株式について、2株を1株に併合いたしたいと存じます。

なお、株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法第235条の定めにより一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主の皆様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

3. 株式併合の効力発生日

平成28年10月1日

4. 効力発生日における発行可能株式総数

30,000,000株

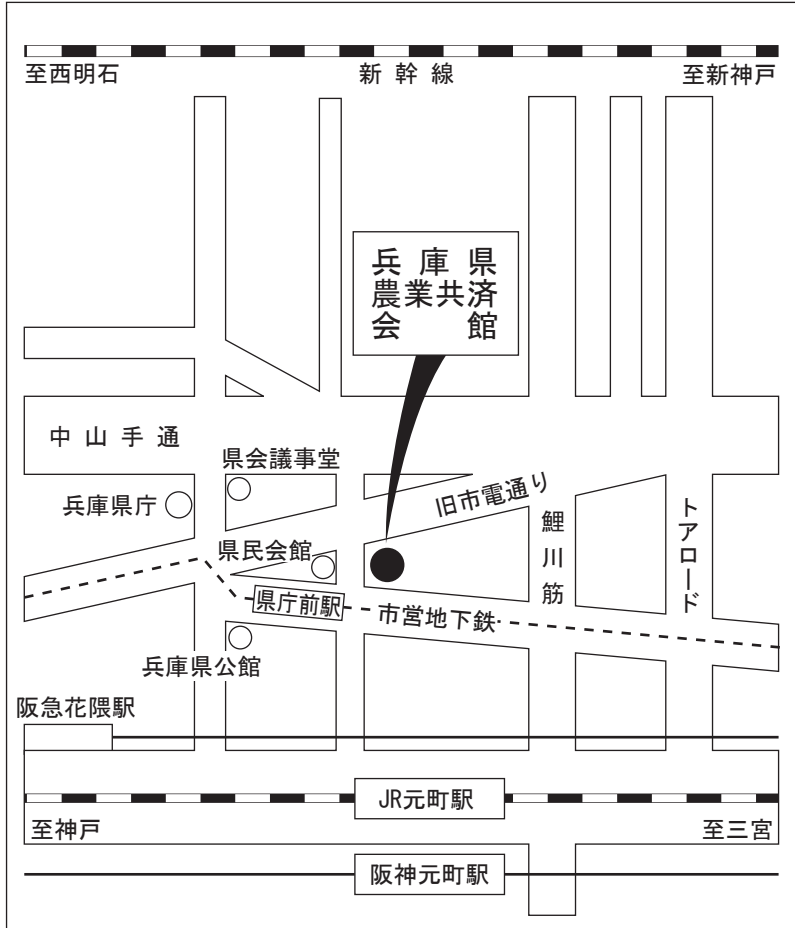
以 上

メモ欄

A series of 20 horizontal dashed lines for writing notes.

# 株主総会会場ご案内図

神戸市中央区下山手通4丁目15番3号  
兵庫県農業共済会館 4階会議室  
電話(078)332-7165



(市営地下鉄県庁前駅東出口②すぐ)  
(JR・阪神元町駅東口より山側徒歩6分)